

2023 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2023 年 11 月 18 日（土） 10 時～16 時 30 分

(2) 場所：日本勤労者山岳連盟事務所

(3) 参加者：8 会から 18 名

（ふわくハイキングサークル、ちば山の会、かがりび山の会、船橋勤労者山の会、岳人あびこ、東葛山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、松戸山の会）

(4) 実施内容

① 事故報告

今年度の事故は「8 件」で昨年より減少しているが、転倒事故が「7 件」と相変わらず多い。

全国連盟の昨年の事故件数は過去最高であり、今年はそれをさらに上回りそうである。警察庁資料より、全国の登山人口は減少しているにもかかわらず、昨年の事故件数は過去最高だった。

② 事故事例報告

妙義山白雲山北東稜での滑落事故について事故当事者からの報告です。

10m 落下後、数 10m 滑落し、肋骨 15 箇所、背骨 3 箇所、脛骨 1 箇所の骨折をするも、一晚ビバーク後にヘリ救助されている。

同行者 2 名の冷静・沈着な対応が参考になる。

③ ファーストエイド講習

「ちば山の会」の国際山岳看護師より、山での外傷に関してのファーストの特徴と対処方法、および、セルフレスキューのための装備品の紹介があった。

④ フリーディスカッション

3 つのグループに分かれディスカッションを行った。

◆各会の山行計画書を持ち寄り、よりよい計画書を検討

計画書の 4 つの目的（山行メンバー間の情報共有、山行管理部門への情報提供、家族への通知、遭難時の手掛かり）に対しての必要項目を検討した。

◆クライミング、沢登りのレベルアップ方法

今年、県連で行ったクライミング講習（入門編）は受講生 8 名から「満足した…」との感想が寄せられた。

次へのレベルアップを望んでいるが、県連ではなかなか対応できない。

東京都や埼玉県では、救助隊組織で訓練を通じて次世代を育てるシステムが回っている。

全国連の講師派遣制度は、一回であれば可能だが継続しての派遣は難しい。などの意見があり、講師の育成が鍵である。

◆次世代会員の獲得と育成について

各会はHP、広報、お試し山行などで新会員を募っている。

HPには写真を多く載せると見てもらえる。

例会に参加し、オリエンテーションを行って会のことを知ってもらっている会もある。

(5)実施後の参加者の感想

- ・事故報告は、コロナ後の活動が戻り事故が増加していることが良く分かりました。
- ・事件事例報告は、遭難してもきちんと記録を報告して、事故防止に役立てることはとても重要だと感じました。
- ・ファーストエイド講習は、山での事故発生時の最新の対応方法を学ぶことができ大変参考になりました。
- ・フリーディスカッションでは、クライミング・沢のぼりのレベルアップ方法について各会の実情が聞けて良かった。
- ・計画書の検討では、他の会の計画書と自分たちの計画書の違いを知ることができ、会に持ち帰って検討したいと思いました。

など有意義であった…との意見が多く寄せられました。

もっと多くの参加が望まれるところです。



ファーストエイド講習



フリーディスカッション

以上

私が『事故防止経験交流集会』を知ったのは、「船橋県民の森」の中にある「古民家」を利用して、1泊2日で行っていた頃に遡ります。

1日目は、隙間風が入り込むような建物でしたので、参加者は防寒具を着て、各会からの事故報告とその対策などを聞き、真剣に再発防止のために熱く激論を交わしたことが思い出されます。また、夜には、各会がそれぞれ持ち寄った食材で夕食を準備し、それを食べながら多くの情報交換をしました。この懇親会も楽しみの1つでした。眠くなった人はそれぞれ適当な部屋に入り、持参のシュラフに潜り込める…ということで、帰りの心配も要りませんでした。朝まで激論を交わす強者も毎年数名はいたように記憶しています。2日目は、ロープワークを中心にした実技講習などを行い、昼には解散しました。

「1日目のみ」、又は、「2日目のみ」の参加者を含めて、毎回『50名』くらいだったので…。東葛山の会では、会場が近い為、毎回10数名の参加者がいたと思います。(編集子)